

編・集・後・記

石原渥勇氏(1期)が再度会長に選出された2003年6月のOB・OG会総会における最大のテーマは、IIR創立50周年記念行事を2005年4月に開催することであった。それは今までの50年間のIIRの活動を振り返り、今後のIIRはいかにあるべきかを主軸にして種々の行事を行うことであり、そしてその中心が記念誌の発行であった。

役員会は小生にこの記念誌委員会担当を任命したが、全くの素人であるばかりでなく、私自身も仕事の上で海外出張が多いので辞退したが、他の役員もそれぞれ重要な役割を負わなければならず、石原新会長に請われるままに引き受けることになった。そこで集まった編集委員は、それぞれ仕事や家庭をやりくりしながら目標に向けて一步一步前進し、東京での会合は実に30回を超えた。

印刷・製本事業に精通する岩田紘行君(13期)、千代延勝利君(32期)、国際的活動や海外生活に豊かな経験をもつ田付晶子君(15期)、安富英子君(16期)、また海外事業、企業に豊富な経験をもつ小笠原正文君(7期)、現役では試験期間もいとわず交替で出席をしてくれた3人(千木良恭正君、邊見力君、宮ヶ原英君)、そして歴史を語る上で最も重要な年表作成に携わり、委員会が壁にぶつかった時、いつも適切なアドバイスをくれた加藤彰夫君(10期)と、まさに年代を超えた強力なメンバーが編集の柱となった。企画の内容、編集、製本、投稿者とのコンタクト等を彼らに全面的に任せることができたおかげで、小生は記念誌委員会を継続開催することに専念できた。

この記念誌が記念行事式典で、皆様のお手元に届けられることは大きな栄誉である。しかしながらその背景には、全編集委員のIIRに対する篤い思いとその発展を願う気持ちがエネルギーとなり、その誕生が可能になったことを皆様にご報告したい。編集に際して、各期みんなが偏ることなく原稿を寄せることを目指したが、結果的に各年代へ平等に振り分けることは困難であった。また側面から協力してくれた、富田紀男君(39期)、安岡美佳君(44期)、千葉稔弘君(45期)、および米谷瑞恵君(31期)、田中美和君(45期)にも感謝の気持ちを伝えたい。

●IIR50周年記念誌委員会委員長 巨理 泰(7期)

記念誌を発行するにあたり、ご多忙にもかかわらず貴重な文章をお寄せいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

十分な準備ができていなかったために、OB・OG会員をはじめとし、留学生やホストファミリーなどお世話になった皆様全員に原稿をお願いできなかったことを残念に思っています。

IIRは会員一人ひとりにとって、青春の思い出の1ページであり「異文化に触れ、国際交流に貢献したい」という情熱が50年という歴史を支えてきたことを実感しました。

三十余回の編集会議を重ね、委員それぞれが最大の努力をして作り上げた記念誌だと満足しています。

最後に、この記念誌が皆様にIIRの歴史を今一度^{ひもと}振り返っていただくきっかけになることを願い、編集長の挨拶とさせていただきます。

●編集長 岩田紘行(13期)

*ご執筆いただきました皆様の肩書きおよび職歴は省略させていただきました。

慶應義塾大学
国際関係会50年の軌跡

IIR

Past・Present・Future

2005年4月24日発行

- 発行人 石原渥勇(1期)
- 編集人 巨理 泰(7期)
- 編集長 岩田紘行(13期)
- 編集委員 小笠原正文(7期)
加藤彰夫(10期)
田付晶子(15期)
安富英子(16期)
千代延勝利(32期)
千木良恭正(50期)
邊見 力(51期)
- カバー・表紙デザイン、
カバー・本文イラスト
田米秀子
- 本文デザイン
榎クレセント
- 編集協力 淵野明美(9期)
米谷瑞恵(31期)
富田紀男(39期)
安岡美佳(44期)
千葉稔弘(45期)
田中美和(45期)
宮ヶ原英(52期)
- 編集・校正 飯田美智子
吉川亮子
- 印刷 開成堂印刷株
- 製本 株DNP製本
- 発行所
慶應義塾大学国際関係会
創立50周年記念行事実行委員会
三田部室
東京都港区三田2-15-45
TEL03-3453-0208
日吉部室
神奈川県横浜市港北区
日吉4-1-1
TEL045-562-1934

© IIR 2005, Printed in Japan